

スズキ、3校目となるインドの 「日本式ものづくり学校(JIM)」が経済産業省より認定



スズキ株式会社がインド・グジャラート州ガンジナガルに開校準備を進めている職業訓練校が、本日、経済産業省より、スズキとして3校目となる「日本式ものづくり学校(JIM)」の認定を受けました。

2016年に、日印両政府は「ものづくり技能移転推進プログラム」に合意しました。この一環として、インドに進出している日系企業は、経済産業省と連携をとりながらインド製造業の人材育成支援を目的とした日本式ものづくり学校 [JIM: Japan-India Institute for Manufacturing] の設立を進めています。

この度、スズキとして3校目となるJIMの認定を受けた「マルチ・スズキ JIM(グジャラート州ガンジナガル)」は、2022年9月開校、一学年84名(2年間コース)の予定です。

「マルチ・スズキ JIM」は、インドの職業訓練学校として、スズキのインド子会社マルチ・スズキ・インディア社が最新の教育設備や人材を投入して運営しています。組立工、電気工、塗装工、自動車整備など、様々なコースで実践的な訓練を行っています。

スズキは、2017年に1校目「マルチ・スズキ JIM(グジャラート州メーサナ)」の認定を受けました。また、2019年には2校目「マルチ・スズキ JIM(ハリヤナ州グルグラム)」の認定を受けました。これまでに2校で累計827名の人材を輩出してきました。卒業生は自動車メーカーや、自動車部品メーカー、自動車ディーラーなどに就職しています。

本日、吉川ゆうみ経済産業大臣政務官、飯田陽一貿易経済協力局長、太田三音子技術・人材協力課長、駐日インド大使館マヤンク・ジョシ首席公使をはじめ、同プログラム関係者、認定企業出席のもと、経済産業省にて認定式が執り行われました。スズキからは、長尾正彦取締役専務役員が出席し、「人材育成を通じて『Make in India』『Skill India』に貢献し、インド政府が掲げる『自立したインド』の実現に向けスズキグループ一丸で取り組んで参ります」と述べました。